

Social Empathy Index: A Psychometric Study and Group Comparisons among Japanese Medical Undergraduates

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 孫, 時妹 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002737

論文内容の要約

順天堂大学	博士 (医学)	氏名	孫 時姝
論文題名	Social Empathy Index: A Psychometric Study and Group Comparisons among Japanese Medical Undergraduates		
	社会的共感指数日本語版の信頼性及び構成概念妥当性の検証：医学生を対象とした横断調査を用いた分析		

論文内容の要約 (1,000字~1,500字)

【目的】本論文は、本邦の医学教育分野ではあまり知られていない社会的共感力を測定する尺度 (social empathy index: SEI) 日本語版の開発と、その信頼性や妥当性等の尺度特性を検証したもので、医療人育成において意義ある論文である。

共感力は、患者-医師関係に重要だけでなく、医師の職業満足度を高くし、燃えつきを防ぐと言われている。そのため、学生の共感力を高める教育が行われ、様々な尺度が共感力評価に用いられてきたが、多くの尺度は、感情や認知的共感を測定するにとどまっている。社会的共感力は、Segal et al.によって2011年に提唱されたもので、異なる文化や社会経済状況にある人々を理解し構造的な不平等や格差について洞察する力を指す。それらを含め様々な要素を測定するのが社会的共感力尺度 (SEI) である。本研究では、Segal et alが作成した社会的共感力測定尺度 (social empathy index: SEI) の日本語版を開発してその有用性を検証し、共感力に影響する既知の因子がSEIに影響するかを明らかにした。

【方法】まず、英語で作成されたSEIの35項目を日本語に翻訳し、さらにその逆翻訳を行った。開発者であるSegalに確認を依頼し、承認を得て日本語版質問紙を作成した。さらに、先行研究より、共感力に影響することが知られている特性を尋ねる調査票も作成した。都内の私立大学医学部1、2、4年生414名にインターネットを用いて、無記名のアンケート調査を実施した。SPSS 28.0を用いて、因子構造を明らかにするため探索的因子分析を行い、構成概念妥当性を検証した。さらに既知グループ妥当性についても検討した。

【結果】249名から回答を得た (回収率60.14%、有効回答率55.56%)。因子分析では「マクロ視点取得」「認知的共感」「感情制御」「感情反応」の4因子を認めた (いずれもeigenvalue >1)。これらの累積寄与率は46.1%であった。各因子の α 係数は0.67から0.92であり、折半法では0.94であった。これまで共感力に影響すると言われていた以下の特性により、学生間にSEIに関する有意な差を認めた：性別 ($p < .001$)、将来選択したい診療科 (横断的診療科と専門分化診療科； $p < .01$)、医学分野以外の読書や芸術への関心 ($p < .01$)、健康の社会的決定要因 (Social determinants of health: SDH) に関する知識と理解 ($p < .05$)。

【考察】本研究は、社会的共感力尺度 (SEI) 日本語版が、日本の医学生の社会的共感力を測定する尺度として構成概念妥当性と信頼性を有することを示した。共感力は経験や学修によって後天的に獲得できることが知られている。社会的共感力は格差や不公正について理解し洞察する力であることから、健康格差をもたらす社会的要因 (SDH) の学修によって高めることができると推測される。近年、日本では、COVID-19の影響もあり貧困や孤立、失業など、健康格差の原因である社会的要因 (Social determinants of health: SDH) が顕在化し、SDH教育が進められている。これまで、SDH教育の評価は、提出課題などに基づき質的に行われることが多く、プログラム評価を定量的に継続して行う方法は確立されていない。本研究は、社会的共感力尺度 (SEI) 日本語版がSDH教育プログラムの効果を測定する指標となりうることを示唆する。

今回の研究の制約として、一医学部で行われた調査結果に基づいていることが挙げられる。今後、SDH教育が行われている他の医学部でも調査を実施し、実際にSDH教育評価に役立つか検討が必要である。今後の医療者育成に重要な社会的共感力の教育を進めるにあたり、評価法の確立は教育に不可欠であり、社会的共感力尺度 (SEI) 日本語版開発の意義は大きい。よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。